

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	問題を抱える少年の立ち直り支援の充実						掲載ページ
							111
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		14 千円	638 千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	非行やひきこもり等の問題を抱える少年の立ち直りや自立を支援するため、ボランティア活動をはじめとした様々な社会体験の場を提供します。特に、青少年施設等における野外体験プログラムの提供や、問題を抱える少年が体験活動を行うための新たな受け入れ策の開拓、関係機関等とのネットワーク構築に取り組みます。		活動実績	活動結果は、下記の通りです。		
活動計画	関係機関等との連携強化により、様々な状態の対象者に対するボランティアプログラム提供等の充実に努めるほか、親子ふれあい合宿を実施します。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	立ち直り・自立支援のためのボランティア活動者数		171 人	-	189 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	家庭裁判所や子ども・若者応援センターYELL等との連携により、青少年施設等でのボランティア活動に取り組んだ青少年の延べ人数を指標とし、事業の実施状況を把握します。 (最終目標と最終年度)						
	親子ふれあい合宿参加者数		13 組	-	4 組	順調 やや遅れ 遅れ	順調
保護観察所等との連携により、親子ふれあい合宿に参加した親子の延べ数を指標とし、事業の実施状況を把握します。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	家庭裁判所等からの相談や依頼は少なくなっていますが、子ども・若者応援センターYELL等からの相談や依頼が増え、ボランティア活動者数は増加しています。また、親子ふれあいルームや子育てふれあい交流プラザ、海岸清掃や竹林保全活動、青少年施設等の受け入れ先からの温かい理解と協力を得て、問題を抱える少年の立ち直りや自立支援に資することができています。そして、親子ふれあい合宿についても、青少年施設等を利用して実施し、親子がふれあう機会を提供することにより、親子の絆を深めることができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、非行やひきこもり等の問題を抱える少年の増加が社会問題となっており、適時性のある事業です。これを青少年施設等との連携を図りながら、効率的に事業を実施することができています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
子ども・若者応援センターYELLや若者サポートステーション、家庭裁判所等の関係機関との連携を継続しながら強化します。同時に、受け入れに協力いただいている施設やボランティア団体等との連携を継続して、問題を抱える少年のニーズに応えられるボランティア活動プログラムの開発や提供を行います。そして、親子ふれあい合宿の実施については、内容と方法の両面について検討し充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	メンタルフレンド派遣事業						掲載ページ
							111
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		867 千円	1,227 千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	メンタルフレンドをひきこもり児童等の家庭等に派遣し、児童の心の健康を回復させるとともに、対人関係の向上や生活リズムの改善等を目指します。また、軽度の被虐待経験のある児童の家庭等に派遣し、児童の心理的安定や対人関係能力の向上を図り、親子関係の安定維持を目指します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	(メンタルフレンドの派遣)定期的に児童の家庭等で会話やゲーム、スポーツ等を通じた児童とのふれあいの機会を作る。 (メンタルフレンドの募集、研修)選考、研修を経て登録者を決定。登録後も研修受講を義務付け、年1回以上の参加を継続登録の要件とする。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	メンタルフレンド派遣実績		62 件	単年度目標設定なし	57 件	- %	大変順調
	メンタルフレンドの派遣件数の増加が、児童の心の健康回復や生活リズムの改善等に寄与することから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)						
							遅れ
(最終目標と最終年度)						順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	メンタルフレンドの募集の際には面接や研修を実施し、選考により登録者を決定するなど、質の確保にも努めました。 ひきこもりの状態にある児童や経度の被虐待経験がある児童に対して、一定の研修を積んだ資質と意欲のあるメンタルフレンドを派遣し、当該児童とのふれあいを通じて、心の健康回復や対人関係能力の向上、親子関係の安定維持を支援することができ、有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果をあげるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて運営しています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
青少年の健全育成を図るうえで、児童の心理的サポートや対人関係能力の向上等を目指した訪問活動を行う本事業の意義は大きく、今後も着実な取り組みが必要と考えています。利用実績が低迷している状況の中、今後も職員への周知を重ねるとともに、利用が適切と思われる児童の担当者への打診を行うことで利用の促進を図ります。また、さまざまなニーズに対応できるようメンタルフレンドの確保に努め、その充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	ひきこもり児童宿泊等指導事業						掲載ページ
							111
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,655 千円	1,470 千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	不登校やひきこもり状態にある児童を対象に、通所による陶芸教室や青少年自然の家での宿泊プログラム等を実施し、社会適応力、対人関係能力、精神的安定及びストレスの解消を図ります。			活動実績	陶芸教室については毎月1回、年間で12回実施しました。また、各少年支援室独自で年2回ずつ、計10回のバス利用行事を行いました。さらに、バスを利用しない123回活動も計上しました。以前と比較して、コミュニケーション能力を向上させる機会がより増えました。	
活動計画	不登校児童等を対象にした体験型教室を実施します。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	事業実施回数	43回	単年度目標 設定なし	45回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	本事業は、児童に社会適応力を身につけさせるため、陶芸教室や宿泊体験プログラム等の中で、職員がマンツーマンで接し、行動観察を行い指導・援助を行うもので、事業の実施回数が事業目的に直結することから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)			- %			順調
					やや遅れ	順調	
(最終目標と最終年度)			%	遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	今年度は、陶芸教室、集団活動宿泊体験プログラム等、合わせて45回実施し、不登校やひきこもり、非行や発達障害等の児童に対して、社会適応力や対人関係能力等の向上に努めました。活動の有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算の執行に努めています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
本事業は、施策に対する有効性も高く、不登校児童対策や非行等の児童のスキル向上の場として、重要な事業です。今後も目標の達成に向けて、着実な取り組みを進めていくことが重要です。非行や不登校、発達障害児の増加に伴い、学校だけでは対応できない児童生徒のスキル向上の場として社会適応力を身につけさせるとともに、その家族支援も継続して実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	スクールカウンセラーの配置						掲載ページ
							112
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		140,656 千円	139,519 千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	不登校やいじめ等の児童生徒及び保護者への対応のため、教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして、すべての中学校区に配置し小学校へも派遣します。小・中学校等におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることで生徒指導上の諸問題の解決を図り、児童生徒が心の問題を抱えなくてよい状態を目指します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	相談件数は年々増加し、相談内容も多様化しています。児童生徒・保護者及び教員の「心のよりどころ」となっています。児童生徒の相談件数は、年々増加して相談内容も多様化してきており、また小・中連携の強化を目指すためにも、小学校へのスクールカウンセラーの派遣の充実を図ります。(市による直接実施)				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	小学校へのスクールカウンセラーの派遣充実	7,447 件	-	8,486 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	小学校へスクールカウンセラーを派遣し相談等を行っていることから、小学校での相談件数を指標とし、スクールカウンセラーの体制充実を図ります。 (最終目標と最終年度)				
	スクールカウンセラーの配置及び派遣	62 校	62 校	62 校	大変順調
教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士等の「心の専門家」をスクールカウンセラーとして、すべての中学校区に配置し小学校へも派遣を行い、生徒指導上の諸問題の解決を図ります。 (最終目標と最終年度)	順調 やや遅れ				
				100.0 %	遅れ

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動や成果は予定通りでした。スクールカウンセラーの全中学校への配置および小学校への派遣を継続的に行いました。教育相談に関する高度で専門的な知識・経験を有する「心の専門家」として、生徒指導上の諸問題の解決改善に貢献しました。児童生徒の「心のよりどころ」となっています。また教員のカウンセリングのスキル向上にも貢献しています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各中学校へのスクールカウンセラーの配置と小学校への派遣の見直しを行い、効率的な執行ができました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
児童生徒の相談内容も進路・学習・友人関係・部活動等多様化しており、小中連携の強化を目指すためにも、さらに小学校へのスクールカウンセラーの派遣の充実が必要です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業						掲載ページ		
							112		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		28,261	千円	33,000	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	不登校、いじめとも児童生徒にかかわる最重要課題であることから、事案の早期発見・早期解決や、社会性の育成を含む多様な支援を行うことで問題解決に取り組みます。			活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	中1ギャップが顕著であり、その要因を分析すると共に、小中連携を含め、きめ細かな対応により、不登校児童生徒数の減少に努めます。教員のいじめに対する意識の希薄化を招くことのないよう、生徒指導主事・主任会議等において、継続的な取組、啓発に努めます。(市による直接実施)				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	スクールソーシャルワーカー設置	4人	6人	6人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	できるだけ早期に各区毎にスクールソーシャルワーカーの配置を実施します。 (最終目標と最終年度)			100.0%	
	学校訪問、家庭訪問回数	3,934回	-	6,190回	順調 やや遅れ 遅れ
学校訪問、家庭訪問を強化し、児童生徒及び家庭環境への直接的な働きかけを行います。 (最終目標と最終年度)					

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	不登校や虐待等の問題のある児童生徒294人に対応し、そのうち94人が解決・好転となりました。学校への訪問、電話などの働きかけは、昨年度2,556回から3,583回と増加しました。また、家庭訪問は2,607回、関係機関への訪問は3,141回といずれも昨年度を上回り、スクールソーシャルワーカー1人当たりの訪問回数でも昨年度を上回っています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	不登校対策推進協議会、療育キャンプ等について経費の適切で効果的な執行に努めました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
小中連携を含め、よりきめ細かな対応により、引き続き不登校児童生徒数の減少に努めます。「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こりうるもの」であり「人間として絶対に許されない」という強い認識に立ち、取組を進める必要があります。25年度からは、今までの取組に加え、新たに「いじめ問題等に関する第三者検討会議」を開催することにより、いじめ問題等の早期発見・早期対応に向けた取組及び啓発により一層努めます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	不登校・いじめ対策の充実						掲載ページ
							112
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		47,229 千円	203,334 千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第二課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	不登校、いじめとも児童生徒にかかわる最重要課題であることから、事案の早期発見・早期解決や、社会性の育成を含む多様な支援を行うことで問題解決に取り組みます。			活動実績 暴力行為発生件数は前年度とほぼ同数ですが、生徒間暴力や対人暴力など、より重大な事案の発生件数は減少しました。
活動計画	中1ギャップが顕著であり、その要因を分析すると共に、小中連携を含め、きめ細かな対応により、不登校児童生徒数の減少に努めます。教員のいじめに対する意識の希薄化を招くことのないよう、生徒指導主事・主任会議等において、継続的な取組、啓発に努めます。(市による直接実施)				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	不登校児童生徒数	791 件	765 件	10月公表 予定	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	中1ギャップの解消のため、不登校対策推進協議会における協議や、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して不登校児童生徒数の減少を図ります。 (最終目標と最終年度) H25年度 750人			- %	
	いじめの認知件数	103 件	135 件	10月公表 予定	順調 やや遅れ
教育相談活動や心の相談アンケート等の実施により、校内でのいじめの早期発見に努めました。また、スクールカウンセラーの積極的な活用により、いじめの早期発見・解決に努めます。 (最終目標と最終年度) H25年度 120人	- %			遅れ	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	不登校や虐待等の問題のある児童生徒294人に対応し、そのうち94人が解決・好転となりました。学校への訪問、電話などの働きかけは、昨年度2,556回から3,583回と増加しました。また、家庭訪問は2,607回、関係機関への訪問は3,141回といずれも昨年度を上回り、スクールソーシャルワーカー1人当たりの訪問回数でも昨年度を上回っています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	不登校対策推進協議会、療育キャンプ等について経費の適切で効果的な執行に努めました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
小中連携を含め、よりきめ細かな対応により、引き続き不登校児童生徒数の減少に努めます。「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こりうるもの」であり「人間として絶対に許されない」という強い認識に立ち、取組を進める必要があります。25年度からは、今までの取組に加え、新たに「いじめ問題等に関する第三者検討会議」を開催することにより、いじめ問題等の早期発見・早期対応に向けた取組及び啓発により一層努めます。